

新たな鶏の改良増殖目標のポイントと主な変更点(案)

現行目標のポイント

- 国産鶏種を軸に、特色ある多様な鶏肉・鶏卵の生産を推進。
- 産卵率、増体等の改良と併せた飼料効率の改善を推進。

課題、方向性

- 卵用鶏については、国産鶏種は外国鶏種の産卵能力と比較して遜色はないものの、違いをいかに示していくかが課題。
- 肉用鶏については、国産鶏種の地鶏等は在来種等を利用していることから、ブロイラーよりも増体性や繁殖性に劣る。

新たな目標のポイント

- 卵用鶏については、引き続き産卵の持続性や生存率の向上、卵質の改良を推進。
- 肉用鶏については、ブロイラーとは区別して地鶏等についての改良方向を明記。

定性的な目標

1 卵用鶏

- ①引き続き飼料要求率の改善に努める。
- ②産卵率・日産卵量を改善するとともに、早期に産卵を開始させて早期に目標卵重量に達し維持する産卵性を追求。
- ③卵殻強度、卵殻色等の改良を進める。また、育成率及び生存率の向上に努める。

2 肉用鶏

- ①引き続き飼料要求率の改善とバランスを取りながら増体に努める。
- ②遺伝的な強健性を付与し、育成率の向上に努める。
- ③母系種鶏の繁殖能力の向上、腹腔内脂肪量の減少と産肉性の向上に努める。

1 卵用鶏

- ①現状の飼料要求率を維持する。
- ②産卵率・日産卵量を改善するとともに、早期に産卵を開始させて早期に目標卵重量に達し維持する産卵性を追求。
- ③卵殻強度、卵殻色等の改良を進める。また、育成率及び生存率の向上に努める。

2 肉用鶏

(1)ブロイラー

- ①飼料要求率の改善に努め、増体の低下につながらないように留意。
- ②遺伝的な強健性を付与し、育成率の向上に努める。
- ③母系種鶏の繁殖能力の向上に努める。

(2)地鶏等

家畜改良センターと都道府県が連携し、特色ある能力を保持しつつ、増体性と育成率や繁殖性とのバランスのとれた能力向上を図る。併せて、ひなの安定供給や消費者等の認知度を高める取組を推進。

定量的な目標

<卵用鶏>

- 産卵率: 84% → 86%
- 卵重量: 62g → 61~63g
- 日産卵量: 52g → 52~54g
- 50%産卵日齢: 147日 → 145日
- 飼料要求率: 2.1 → 2.0

<肉用鶏>

- 49日齢時体重: 2,700g → 2,800g
- 育成率: 97% → 98%
- 飼料要求率: 2.0 → 1.9

<卵用鶏>

- 産卵率:
- 卵重量:
- 日産卵量:
- 50%産卵日齢:
- 飼料要求率:

(精査中)

<肉用鶏>

- 49日齢時体重:
- 育成率:
- 飼料要求率:

(精査中)